

英語科教育研究法セミナー

コーディネーター： 浦野研（北海学園大学）

発表者： 浦野研（北海学園大学）

田中武夫（山梨大学）

本セミナーは、英語教育に関する研究をこれから始めようとする方や、既に研究を行っているものの、課題設定の仕方や研究手法等に自信の持てない方を主な対象に、研究を行う上で注意すべき点や取るべき手段など、特に研究方法に焦点を当てて提案、議論することを目的とする。また、既に英語教育研究を数多く行ってこられた方々にもぜひご参加いただき、活発な意見交換、質疑応答を期待したい。発表内容および発表順は次の通り：

6月29日（土）10:30-11:30

1. 「よい研究」の条件と種類（浦野研）
2. 研究論文の書き方・まとめ方（田中武夫）

1. 「よい研究」の条件と種類

浦野研（北海学園大学）

英語教育に関わる研究を行うとき、まずはその研究を何のために行うのかを明確にする必要がある。その上で、その目的を達成するために適切な研究課題を設定し、さらにその課題に対して適切な研究手法を選択、決定することが重要である。本発表では、特に実証研究（何らかのデータ・情報を集めることによって研究課題に対して答えを導き出す研究）を中心に取り上げ、英語教育研究の文脈における「よい研究」の条件について具体例を交えながら提案する。同時に、研究の種類として考えられる主な手法を紹介し、研究立案の段階で研究課題にふさわしい研究手法の選び方についても議論したい。

2. 研究テーマの選び方・深め方

田中武夫（山梨大学）

どのように研究テーマを見つけ、どのようにテーマを深めていけばよいかという課題は、研究を行う者であれば誰もが直面する。研究テーマを見つけ深めるプロセスとしては、(1) 情報収集の段階（情報を収集する、情報を取捨選択する、情報を組み合わせる）、(2) 絞り込みの段階（焦点を絞る、現状・課題・解決を見出す、論点を見つける）、(3) 思考整理の段階（考えを書き出してみる、仮説や問いをもつ、主張することを決める）などが考えられる。これまでの卒論指導や修論指導を通して気づいたことや、自分自身の反省などから感じていることをまとめ提示してみたい。